

中国上海市における育児の外部化について：家政婦 雇用の背景を中心に

翁，文静

九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻：博士後期課程

<https://doi.org/10.15017/7378070>

出版情報：国際教育文化研究. 11, pp.33-43, 2011-08-10. Comparative and International Education,
Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



中国上海市における育児の外部化について

—家政婦雇用の背景を中心に—

翁 文静

はじめに

Benesse 教育研究開発センターは、2005 年に、首都圏、ソウル、北京、上海、台北の幼児をもつ保護者を対象に「幼児の生活アンケート」を実施した。この調査は、「上海では母親が仕事以外で不在のとき、77.3%の子どもは父方の祖父母または母方の祖父母あるいは親戚によって世話をし、21.8%はベビーシッター・お手伝いが世話をし、15.6%は父親が世話をしている」(2006)ことを示した。また、荒井良雄は中国都市での女性の就業形態を可能にしている理由の一つは比較的に手軽に利用できる家事サービスの存在であると指摘した(荒井 2008)。さらに、上海社会科学院家庭研究センターが上海市都市部在住 773 の家庭に対して、「和諧家庭指標体系及びその影響体制」に関する研究調査を行った。その結果からも、家事・育児などのための家政婦の雇用率は全体の 21%に達することがわかった(徐 2010)。

これらの先行研究を整理した結果、家事や育児に家政婦を活用することが都市部の育児における一つの特徴であることが伺える。しかし、家政婦とは具体的にはどのような仕事なのか、また、家政婦の雇用がどのような背景の下にあるのかについての研究調査はそれほど多くない。そこでこれらの課題を明らかにするべく、本稿では、まず第 1 節で、中国都市部において、家事・育児に従事する家政婦の定義及び資格制度などを明らかにする。第 2 節では、上海を事例として中国都市における家政婦の需要がどのように生み出されているのかを考察する。これに関しては①上海市の人口構造や都市家族の構造の推移、②都市部女性の就業形態の変化、家事労働の分担現状、③児童、とりわけ 0-3 歳の乳幼児の養育を取り巻く環境(養育施設を中心とする)の変遷を取り上げながら論じる¹。

1、家政婦と家政婦資格

中国では家庭に入り、サービスを提供する「管家」、「佣人」、「保母」と呼ばれる家政婦が昔からあった。中国で一番早く家政サービスが現れたのは1983年頃である。20年前に家政婦を雇っていたのは、人手が足りずにやむを得ない事情があった人々ばかりで、子どもの世話を手伝ってもらい目的が80%以上を占めていた。しかし今では、一部の中国人が経済的に豊かになり、生活スタイルにも変化が現れるにつれ、家政婦を雇う理由は多様になった。その中では、子ども、お年寄りや病人の世話を希望する家族が最も多いが、老夫婦と子ども夫婦が別居するケー

スが増えたため、年老いた両親に対して、たとえ元気でも、「安心を買うため」に家政婦を雇っている若い夫婦も多い。そのほか、収入の多い共働きの夫婦の中には、仕事が忙しいという理由で、子どもがいなくても家政婦を雇い、より気ままな生活を手に入れている者もいる。現代の家政婦は正式には「家政サービス員」（家政服務員）と称し、かつての「管家」と明らかに異なる。家政婦のサービス内容は家全体の管理、住居の清掃、子どもの世話に加え、老人の介護、家庭内教育などの仕事も含む。サービス提供の形式も住み込みという形から時給制、定期制など様々な形式が現れた。国家労働局及び社会保障局（日本の厚生労働省にあたる）の配布した「家政サービス員（家政婦）国家職業標準（2000年）」によると、家政婦とは「顧客の要望に従い、各家庭において家事全般を担当し、児童、老人、病人の世話をし、家庭の様々な仕事に携わる人員」と規定されている。また、労働・社会保障部は家政婦の国家職業基準を設け、初級・中級・高級の3段階の等級に応じた家事労働者の資格検定を実施し始めた（表1）。

表1 「家政サービス員国家職業基準」

		初級	中級	高級
受 験 資 格	訓 練	90時間の初級訓練を経て修了証書を取得した者	初級資格書を取得してから連続して1年以上本職業に従事し、その後120時間の中級訓練を経て修了証書を取得した者	中級資格書を取得してから連続して2年以上本職業に従事し、その後300時間の高級訓練を経て修了証書を取得した者
	経 験	連続半年以上の実習経験をもつ者	初級資格書を取得した後、連続して1.5年以上本職業に従事した経験をもつ者	中級資格書を取得した後、連続して4年以上本職業に従事した者
	学 歴		労働社会保障行政部門が認定した中級技能訓練を目的とした中等以上の職業学校で本職の卒業証明書をもつ者	大学・高等専門学校の卒業生で、300時間の高級訓練を経て、修了証書を取得した者
検 定 内 容		必須： 家庭儀礼、家事の方法、乳幼児の世話、老人の身の世話、病人の世話、妊婦・産婦の介助	必須： 家庭儀礼、家事の方法、老人介護、妊婦・産婦・新生児の介助	必須： 社交儀礼 家事管理 家庭教育 家庭のレクリエーションと娯楽
			選択（1） 乳幼児の保育 病人の看護	

出所：中華人民共和国労働局と社会保障部（2006）

この資格制度は2006年に改定を経ているが、2000年時から一貫して、職を失った都市女性の再就業訓練の中で活用されてきた。しかし、近年になる、農村女性の受験も見られるようになってきている。

筆者の調査においては、上海市の家政婦の仲介・斡旋会社の多くは独自の資格及び検定制度をもつことが分かった。例えば、上海市某家政婦派遣会社が派遣する家政婦は、同区の労働局の主催する理論知識を取得し、某病院における技能訓練（医者・看護婦に新生児の取扱い方法）を受け、「護理員」と呼ばれる初級看護婦の資格を取ることになる。その後、経験年数によって、「高級護理員」と呼ばれる高級看護婦および「護理師」と呼ばれる最高級看護婦に進級することができる。同会社の家政婦らはそれぞれのレベルによって給料も異なる。

2、家政婦雇用の背景

2000年の国家職業基準の制定に関与するなど、家政サービスの振興に関心を寄せる中国の社会学者の劉英は、家政サービスに対する需要の背景を（1）家族形態の変化（主に核家族化）によって親族間の相互サポートが失われた、（2）父権秩序が変化し、共働きが増加したことによって家事労働力の不足が生じている、（3）高齢化によって扶養問題が出現している、（4）一人っ子政策によって子どもの教育が重視されている反面、両親の共働きによって子育てに困難が生じている、と整理している（劉英 2000）。

以下では、中国最大の経済都市である上海市を対象に、そこにおける家事・育児のための家政婦の雇用背景を考察する。具体的に、人口センサス、上海市統計年鑑、上海市人口普查資料などを用いて、①上海市都市部における人口構造と家族構造の特性を把握し、その上、②都市女性の就業形態と家事労働、及び③児童養育における変化はどのように育児の外部化に影響を与えるのかを明らかにしていきたい。

1) 上海市都市部における人口構造と家族構造の特性

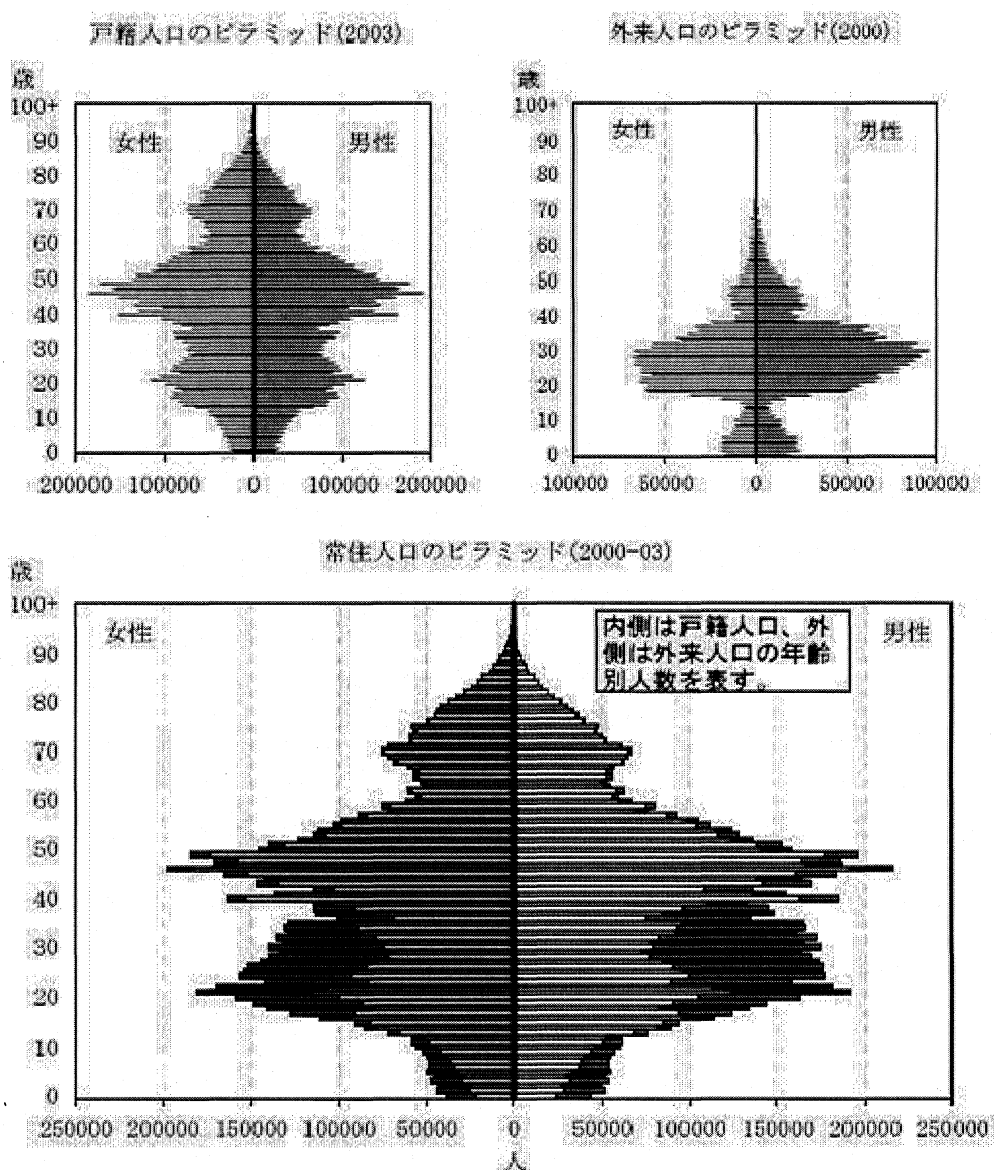
上海市の戸籍を持ついわゆる戸籍人口は、1978年の1098万人から2005年の1360万人へと262万人増えたが、年平均増加率は0.8%にすぎない。戸籍の転出入を伴った社会移動人口を差し引くと、戸籍人口の自然増は1992年よりマイナスとなり、年増加率も1995年からの10年間にマイナス1.1からマイナス3.2%で安定している。その結果、14歳以下年少従属人口の割合は2003年に9.3%に低下し、全国平均の20.3%(05年)を大きく下回った。上海市は1990年代半ばから少子化時代を迎えたのである。

他方、上海市における戸籍人口の高齢化が進み、高齢者割合が急上昇している。2003年の統計によれば、65歳以上の戸籍人口は271万人と全体の14.8%を占める（嚴 2005a）。これに対し2005年全国1%人口抽出調査によれば、65歳以上人口の全体比が7.7%に留まっている。こうした統計から上海市はすでに高齢(aged)社会に到達したともいえる。

上海市では戸籍人口の少子化・高齢化が急速に進んでいた。にもかかわらず、全国トップレベルの高度成長が遂げられている。背景には膨大な外来人口が絶えずに供給され続けることがある。また、外来人口の規模が大きいだけでなく、働き盛りの青壮年がその主体を占めているところにも大きな特徴がある。図2-1は2003年の戸籍人口、2000年の外来人口およびその合

計人口のピラミッドである。一見して分かるように、戸籍人口だけの年齢構造を表す人口ピラミッドは先進国でよくみられる壺型または釣鐘型となっている。このようになった重要な理由のひとつとして外来人口の年齢構造が青壮年層に偏っていることが挙げられる。図 2-1 が示すように、外来人口の大半は 10 歳代後半から 30 歳代までに集中している。この年齢層の総人口は全体の 73.3%を占め、戸籍人口の 33.5%の倍以上である。この 2 つの人口ピラミッドを合体して出来たのは図 2-1 の下半分である。壺型または釣鐘型であることに変わりはないが、15～39 歳人口の割合は 42.4%に上昇している。上海市における労働力人口の不足は外来人口の流入によって解消されたというわけである（厳 2008）。

図 2-1 上海市における戸籍人口と外来人口の年齢構成



外来人口は青年層に集中しているという特徴を踏まえたうえで、次に上海市都市部における家族構造について検討していこう。1949～2001 年までの上海市国民経済・社会発展歴史統計資

料及び 2009 年上海市統計年鑑によれば、1949 年上海市都市部における平均世帯規模数は 5.0 人であったが、1969 年、1989 年はそれぞれ 4.3、3.2 人までに減少、2008 年の上海市都市部平均世帯規模数は 2.7 人に留まったことがわかった。また、徐安琪は近年上海市において、6～7 割の世帯が核心家族（核家族）であり、次いで直系家族が多い、聯合家族（拡大家族）は全体の 1～2 割に過ぎないと指摘している（徐 2001）。上海市都市部における家族構造は核家族が大半以上であり、その世帯規模はますます縮小していく傾向にあることがわかる。

中国の伝統的な家族構造は三世帯同居が最も多く、親族の間に相互制約、相互支援の関係を持ちながら、育児、高齢者の介護という現実的な相互行為を行った。しかし、現在、三世代同居を行っている世帯が極めて少ないことや、市場競争の中で個々人の労働強度の高まりを考えると、親族による支援も難しくなっていることが想像できる（劉英 2003）。上海市における家政婦の派遣会社の成長はこのような文脈において理解できる。

2) 都市部における女性の就業形態と家事労働の変化

中国の都市家族の特徴として、まず指摘しておきたいのは夫婦共働きの世帯の多さである。一般に都市女性は出産・育児期に退職せず、50歳前後までは継続的に就業する。近年では社会学者の落合美恵子らが高学歴者女性の家庭回帰志向に言及するなど、専業主婦世帯の増加に注目が集まっている（落合他 2007）。しかしなお、年齢階層別就業が典型的「M字型」曲線を描く日本や韓国の状況と、中国女性の就業状況とを同一視できるわけではない。例えば、表2-1及び2-2では、上海市2000年人口普查資料10%サンプル調査、2005年人口普查資料1%サンプル調査、上海における性別発展-2005年—上海統計手引きなどの調査データをもとに、上海市都市部における女性就業人口、就業率の変動を示した。表 2-1 のデータが1982、1990、1995、2000、2005年の各年度における上海市女性の就業人口及び就業率を示したものである。1982年度の上海市女性の就業率が最も高く47.2%に示しており、1990、1995年度は微減傾向にあり、2005年度の就業率が最も低いことが分かった。しかし、2005年度の上海女性の就業率は低いものの、男女総就業者数の40%を超えることもわかる。また、上海市男女の年齢別の就業率を表す図2-2から明らかなように、上海市の女性の労働率は男性よりやや低いものの、「M字型」ではなく「台形型」の曲線となっている。女性が結婚や出産を機に家庭に回帰を選択するような傾向は、少なくとも全体の労働率に影響するような程度には至っていないのである。

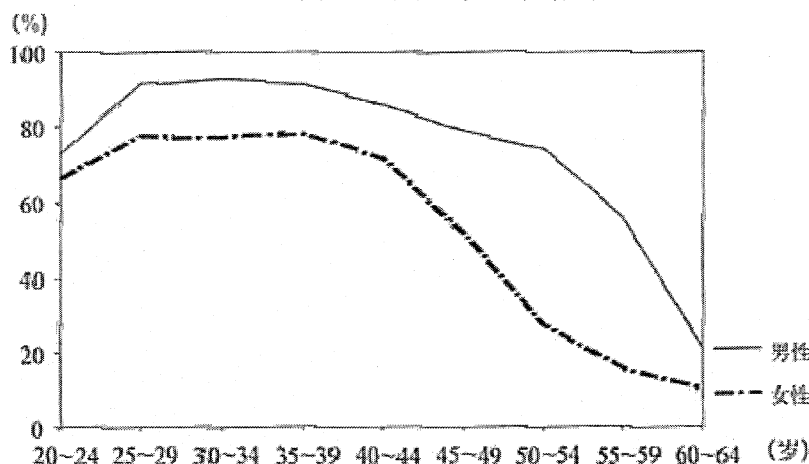
一方、近年の研究調査では、若い世代を中心として女性非就業者のなかのかなりの部分が「家事に従事」していることもわかる。例えば、肖黎春は非就業の女性に注目し、家事・育児専念する男女の中、女性が男性より遥かに多く、非就業者の全体91.2%も示すことを指摘した（肖 2010）。非就業の女性について別紙にまとめたい。

表2-1 年度別上海女性就業人口の推移

年度	1982	1990	1995	2000	2005
女性就業人口	3509481	3678270		3562241	3524749
女性就業率	47.2	45.6	46.5	42.3	41.6

(出所:上海市2000年人口普查資料10%サンプル調査、2005年人口普查資料1%サンプル調査、上海における性別発展-2005年—上海統計手引き)

図2-2 2005年度上海市男女の労働率



(出所: 2005年人口普查資料1%サンプル調査)

中国都市部に女性の相対的な高就業率について、蘇林は以下のようにまとめている（蘇2005）。

- 中華人民共和国が成立後、政府は女性の労働者就業の権利を保障し、女性の就業を促進する一連の法律、規則を制定し、研修・養成、昇級、保健、安全を含む就業の機会・条件ならびに解雇や労働者の社会保障の面などで生じる直接的又は間接的な性別に基づく差別を禁止している。そのため、女性の就業人数も増え続け、あわせて就業率も増加している。また、国も長期にわたって「低賃金高就業」（賃金を低く抑えて、多くの者が働けるようにする）政策を採ってきたので、一般家庭では男女共働きで家計を維持しているのが現状である。

上海市における女性の就業率が比較的に高いという特徴を踏まえたうえで、次に上海市都市部における家事役割分担の状況を考察することにする。まず、表2-2は、1990年、2000年、2008年の上海婦女社会地位調査の結果をもとに、男女別の家事分担平均時間をまとめたものである。1990年の上海市都市部の男女の平均家事労働時間ともに長く、それぞれ5.1時間と3.7時間となり、また、2000年、2008年の男女の平均家事労働時間は1990年に比べ、ともに減少したものの、男性よりも女性の労働時間が長いことがわかった。（2008年の家事労働内容に子どもの学習指導

時間という項目を新たに設置したため、2000年の平均労働時間よりやや多くなる)。

表2-2 上海市都市部における男女別の家事分担の平均時間

年度	女性			男性			サンプル 数
		就業女性	非就業女性		就業男性	非就業男性	
1990	5.1	—	—	3.7	—	—	973
2000	3.5	2.4	4.5	1.6	1.2	2.4	1559
2008	3.7	2.8	4.8	2.4	2.2	3.0	768

注：“—”は未調査或いはデータなしを意味する。

2008年の家事内容に子どもの学習指導という新しい項目を増やした。

出所：『上海婦女社会地位調査』1994年、2000年、2008年

2000年の女性の平均家事労働時間が1990年より少なくなる原因は、①家庭における生活の質の向上に伴う家電の普及、②家事社会化（家政婦の雇用、加工食品の購入を含む）の広がり、③子ども扶養係数（0-14歳の子ども人口が15-64歳労働人口に示す割合）の減少など考えられる（徐 2010）。

上海市の女性が男性より多く家事を分担していることは、「現代都市農村家族研究」（2009）の調査結果においても明らかになっている。表2-3は地区と地区の間には、家事分担の状況がある程度の差異が存在し、五つの地区には、それぞれ特徴があることを示している。上海の特徴は、「共同分担」の割合が比較的低く24.93%しかないが、「主に妻」と「妻が比較的に多い」の割合は最も多く、合計は60.44%を占めている。

表2-3 五地区における家事分担者の総体的分布状況の比較

単位：%

家事分担者	上海	成都	青浦	太倉	宜賓	総計
主に夫	6.14	1.81	7.36	3.68	9.02	4.96
夫が比較的に多い	8.49	4.03	5.35	2.34	1.96	5.22
夫妻共同	24.93	45.62	45.48	52.17	44.71	39.56
妻が比較的に多い	22.19	30.46	31.44	32.11	20.39	26.99
主に妻	38.25	18.08	10.37	9.70	23.92	23.27
総件数	766	719	299	299	255	23.38

Pearson $\chi^2(16)=267.71$ Pr=0.000

注：家事は洗濯、買い物、料理などを含む

共働きの家庭において、女性が家事・育児を同時に担わなければならない。言い換えれば、女性は職場と家庭での二重労働を強いられている。また、競争の厳しい現代社会において、女性たちが男性と同じく仕事に多くの時間をかけるため、家庭での家事や育児などができなくなっている。中国国家统计局の統計データにより、2006年度中国都市部における男女の週間勤務時間はそれぞれ48.3及び45.9時間に増加し、また、上海市875家庭に対する調査結果からも、35%の男女が感じるストレスの第一位は仕事ストレスとなっている（徐安琪 2010）。このような背景のもと、家庭での家事や育児ができなくなる際に、家政婦業は多くの共働きの家庭によって利用されているのだ。

3) 児童養育環境における変化

新中国成立後の1950年代半ば頃から、中国では「集団化」と呼ばれる生活の仕方が実践されるようになった。都市部では「単位」、農村部では「人民公社」という集団がつくられ、仕事や教育、社会保障など人々の生活にかかわるあらゆる場面をこれらの集団内で完結させることによる生産の効率化がはかられた。家族生活の面では、炊事洗濯や子育てなどの家事を各集団に専門部を設けて一括して行う方式が取り入れられた。計画経済期の中国では、託児所・幼稚園は、少数の公立園や地域社会の集団立の園をのぞき、多くは父母の働く単位に設置され、職員・労働者のための福利厚生施設として低廉な料金で子どもを預かった。しかし、改革・開放にともない、家事や育児を集団化の中で実践することは、1980年代初頭までには終焉を迎えていた。単位制度の崩壊の中で労働者に対する福利厚生は削減され、家族はいわば社会に対して剥き出しの状態になった。

1990年、世界子どもサミットに参加した中国政府は、翌91年「子どもの生存・保護と発達に関する世界宣言」、「同行動計画」へ署名し、「90年代中国子どもの発達計画綱要」（1992年）を公布した。「発達計画綱要」には、義務教育の普及と並んで、「2000年までに3～6歳の就園率を全国平均35%にし、農村では就学前1年間の就園率を60%にすること」が掲げられた。同目標は、全国の自治体・教育関係者の大きな努力とユニセフなどからの支援によって期限よりも早い97年に、3歳以上の就園率43%、農村の1年間保育の就園率60%を達成させた。しかし、「発達計画綱要」の示したように、従来の中国の学前教育（0～6歳の教育は包括的に「学前教育」と呼ばれる）は、管理体制から、基礎理論研究まで様々の面においても、3～6歳までの幼稚園教育を中心として行われてきた。

ここで中国における学前教育機関及び近年の変化などについて簡単に触れておこう。中国における学前教育機関は、主として託児所、幼稚園と就学前クラスである。託児所はもともと0-3歳未満の乳幼児を対象とした保育機関（衛生部主管）、幼稚園は3-6歳未満の幼児を対象とした教育機関（教育部主管）という分担であったが、1990年代から両者が一体化する動きが見られる。近年上海市において、託児所と幼稚園が一体化した教育機関が出現し、2歳以上の幼児を受け入れている。しかし、一体化幼稚園の少なさ（女性の社会進出の度合いに対して供給の少なさ）、託児所への不信頼、伝統的な祖父母による子育てという考え方などにより、幼稚園、託児所に通う0-3歳の乳幼児はそれほど多くない。例えば、2002年、上海市政府を中心とし、教育局、

婦女連合会などの部門が「上海市都市部 0-3 歳乳幼児の育児現状」に関して、13 街道に住む妊産婦（3 歳児まで）計 694 人に対して、アンケート調査を行った。その結果、64.6%の乳幼児が家族・親族によって育てられ、33.3%の乳幼児が託児所、幼稚園などの施設に送られていることがわかった。さらに、同調査では 2 歳前の乳幼児を持つ家庭の施設利用率が極めて低いことが分かった。このように、トータル的に見れば、3-6 歳の幼児に比べ、0-3 歳の乳幼児にとって、保育・教育などのサービスを受ける場が少ない。施設に預けることができない家庭において、家事労働者の雇用が必要になってくることが予想される。

終わりに

本稿は、まず、家政婦の変遷、家政婦の資格などについてまとめた。また、上海市における家政婦の雇用背景について二次資料を用いて検討し、大きく三つに整理することができた。一点目は、三世代同居の世帯の少ないことによる家政婦の需要が考えられる²。二点目は、高い就業率の上海市女性が男性より多く家事を分担していることによる家事・育児の外部委託である。三点目は、乳幼児、とりわけ 0-3 歳の乳幼児にとっての保育・教育などのサービスを受ける施設の少なさである。すなわち、少なくとも統計データに基づく限り、上海市都市部では、子育てにおける親族（祖父母）の役割、父親の役割、施設の役割、がいずれも小さいということになる。このような環境においては乳幼児を持つ就労女性にとって家政婦の雇用は、よりよい生活を維持するための一つの不可欠な手段となるだろう。

しかし、家政婦の雇用についての背景は以上の三点に限られるというわけではない。例えば、劉英によると、一人っ子政策による親から子どもへの過剰な期待や教育なども家政婦の雇用に影響を及ぼしている（劉 2003）。また、落合美恵子は中国では広大な農村が家事・育児などの役割を果たし、圧倒的な経済格差を利用して農村出身者が雇用されていることを指摘している（落合 2008）。さらに、祖父母の役割についても、乳幼児の保育と高齢者の扶養が現在も家族・親族に委ねられるとの指摘（鈴木 1999）の一方、定年退職後も仕事を続ける年寄りが増え、完全に隠居する人でさえ、孫のために家に閉じ込められるのを嫌う祖父母が増加しているという報告もある（侯若虹 2004）。以上のように、親の教育熱心、経済格差、祖父母など親族の役割の変化なども、家政婦の雇用に影響を与えている可能性が大きい。上海市における家政婦の雇用背景についてはこれらの要因も含めた総合的な解明が必要と考える。

注

1、注：2005 年上海統計手引き、2005 年全国 1%人口抽出調査の結果を用いた。合わせて国家および上海統計局の出版しているその他資料、上海市地方紙の記事も参考にした。

2、ただし別稿において著者のインタビュー調査からは近居などによる祖父母の積極的な育児支援の実態を見出しており、統計上の三世代同居の減少がそのまま単純に、家政婦の需要に結びつくわけではない。

参考文献

日本語

- 荒井良雄 2008『中国都市の生活空間—社会構造・ジェンダー・高齢者』ナカニシヤ出版
- 落合恵美子 2008「グローバル化する東アジアの低出生率」『学術の動向 4月号特集 1人口とジェンダー—少子化対策は可能か—』株式会社ビュープロ
- 落合恵美子/山根真里/宮坂靖子 編 2007『アジアの家族とジェンダー』勁草書房
- 嚴善平 2008「増大する流動人口と都市の繁栄—上海市を対象に」『中国——社会と文化』第三号(中国社会文化学会)
- 侯若虹 2004「子育て意識のいま、昔」『中国人民』2004年3月号
- 朱家雄 2006「上海における就学前教育の状況」『幼児の生活アンケート・東アジア5都市調査』Benesse 教育研究開発センター
- 鈴木未来 1999「改革開放以降の中国における家族問題」『立命館産業社会論集』35(2)
- 鈴木未来 2004「現代中国における女性と家族」『変貌するアジアの家族—比較・文化・ジェンダー』
- 蘇林 2005『現代中国のジェンダー』明石書店
- 大橋史恵 2011『現代中国の移住家事労働者—農村—都市関係と再生産労働のジェンダー・ポリティクス』
- 一見真理子 2003「中国の幼児教育—ここ十年の変化と今後—」『教育と医学』慶応義塾大学出版社
- 一見真理子 2005「中国の幼児教育—ここ十年の変化と今後—」『教育と医学』(第51巻2号)
- ベネッセコーポレーション 2006『幼児の生活アンケート報告書・東アジア5都市調査—幼児をもつ保護者を対象に』(株)ベネッセコーポレーション
- 内閣府『平成18年版少子化社会白書』

中国語

- 肖黎春 2010「上海女性的就業現状和發展」『上海婦女60年發展報告』122-154頁
- 徐安琪 2001「家庭结构与代際關係研究—以上海為例的實証分析」『江蘇社会科学』
- 徐安琪 2010「上海女性的性別角色態度變遷」『上海婦女60年發展報告』307-340頁
- 徐安琪 2010「上海女性的家庭生活質量和地位」『上海婦女60年發展報告』165-215頁
- 張民生編 2007『0-3歲嬰幼兒早期關心与發展的研究』上海科技教育出版社
- 劉英 2000「家庭呼唤高质量的家政服务」『发展家政服务扩大就业研讨会经验材料汇编』

**About the outsourcing of baby-care in Shanghai:
behind the background of employment of housewife**

WenJing WENG

In Recent years, "The housewife has been used for housework and the baby-care" has been pointed in a child-nurturing research in the Chinese city part. However, the research investigations about what is a housewife and under what background are they employed is not that many.

Then, in this thesis, firstly in Chapter 1, the definition and qualification of housewife in Chinese city part doing the housework and baby-care will be clarified. In chapter 2, I take Shanghai as a case to consider the very housewife's demand in a Chinese city part came out. Consequently, the background of the housewife employment for housework and the baby-care can be separated into three roughly. First, the family of 3 generations cohabitation becomes few and demanded the need of housewife. Second, it is outsourcing of housework and the baby-care by having allotted housework more than the man though the employment rate of the woman in Shanghai is high. Third, there are few places where the services of the baby-care and child-nurturing, etc. for the baby-especially the baby of 0-3 years old- can be received. In a word, for the family in the city part of Shanghai, relative's role, father's role, and the facilities caring become weaker. The housewife's employment will become one indispensable means to improve the difficulty of the reproduction of the family respectively for the working women who have the baby.